

## 発 刊 に あ た っ て

当センターでは、明日の水産増養殖技術を拓くことを夢みて、職員一同、驚馬に鞭打ち懸命の努力を続けています。昭和55年度に実施した試験研究結果のほぼ全容を取り纏めたのが本誌です。

昭和55年度をふり返ってみますと色々な事がありました。その中で特筆される事は、何と言っても当所のホタテガイ研究グループが、ホタテガイの異常へい死対策の確立と実践により、県知事の特別表彰を受けた事でしょう。陸奥湾では、昭和50年以来ホタテガイの異常へい死現象が継続し、ホタテガイ漁業の歴史始まって以来の大問題となっておりました。当該グループは、この問題に関する政府調査団、県行政関係者、関係漁業団体などの強力なご援助のもとに、異常へい死原因を究明すると共に、適正な養殖管理技術を確立し、かつ普及することに努めました。その結果、昭和53年にはホタテガイの生産が上向きに転じ、55年には回復の基調が確立されるに至りました。これは事件発生以来6年目のことで、思えば長い道程でしたが、一緒に努力して参りました関係の皆さまと、喜びを共に出来るに至ったことは何よりと存じます。

また、懸案となっておりました新試験船「なつどまり」が竣工しました。FRP製 24.96トン、定員10名、各種の調査機器を装備しており、明年度より陸奥湾をはじめ、外海沿岸域における増養殖の調査・研究に従事させたいと考えております。

200海里漁業水域の定着や、燃油高騰の再燃などに伴って、漁業を取りまく諸状況は厳しくなる一方です。沿岸漁場の高度利用、栽培漁業の促進など、我々水産研究者に課せられた責務はますます重要になって来ております。

何とぞ、皆さまの暖かいご叱声とご指導を、心からお願い申し上げます。

昭和 56 年 12 月

青森県水産増殖センター 所長

伊 藤 進